

管理困難慰霊塔検討事業 調査結果

1 事業内容

(1) 事業の目的

本事業は、太平洋戦争・沖縄戦で亡くなられた方々の御霊を慰めるために重要な役割を持つ慰霊塔のうち、管理者が不明、または管理が困難になっている慰霊塔について、市町村や周辺住民等の意向を確認し、意向を踏まえた慰霊塔の保存・移設・管理等の手法を複数案収集することにより、そのあり方の具体的な手法の確立につなげることを目的とし、実施したものである。

(2) 調査対象

平成30年度に実施した「県内慰霊塔（碑）管理状況等実態調査」で管理者不明または管理困難となっている慰霊塔について、管理者、土地所有者、所在地自治会、所在市町村等にアンケート及びヒアリング調査を実施するとともに、当該慰霊塔の状況確認のため現地調査を実施した。

調査対象慰霊塔 69基

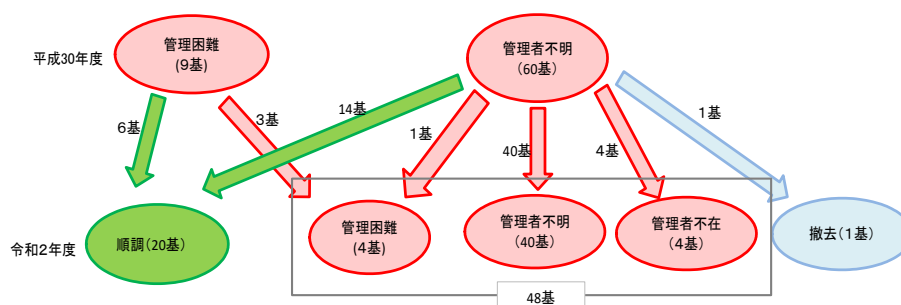
管理者不明 60基

管理困難 9基

(3) 契約期間

令和2年4月12日～令和3年1月29日

2 調査結果



※管理困難: 管理者が高齢化や県外在住のため今後継承することが困難であるとした慰霊塔

(1) 管理者

関係者へのヒアリング、現地調査、文献調査をとおして、15基の慰霊塔管理者が判明した。また、1基は撤去したことを確認し、管理団体等が消滅した管理者不在慰霊塔は4基で、管理者不明慰霊塔は40基となっ

た。

一方で調査開始時点で管理困難慰霊塔として区分していた9基のうち、6基が調査をとおして管理できている状況にあることを確認した。現在、依然として管理困難な3基と管理者が判明したもののうち管理困難と確認した1基の合計4基が管理困難となっている。

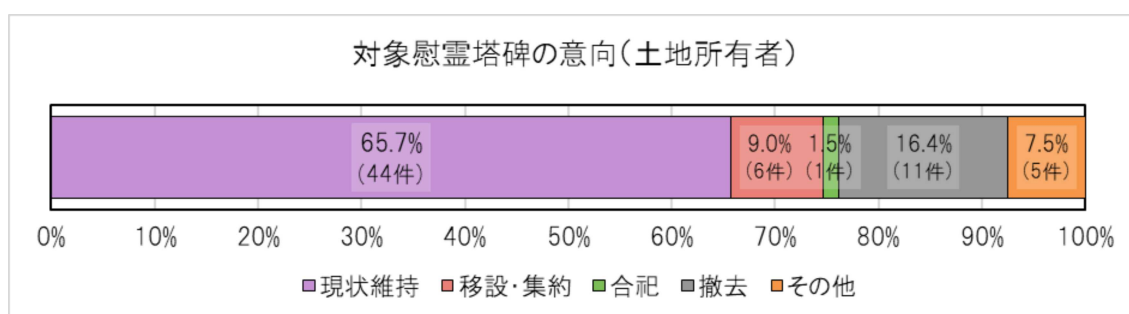
(2) 管理状況

管理者が不明な慰霊塔であっても、地域住民などにより清掃等がされている。

(3) 関係者意向（アンケート・ヒアリング）調査

意向調査については、管理者が判明したものも含め、調査においてヒアリングが行えた慰霊塔全てを対象としておこなっている。

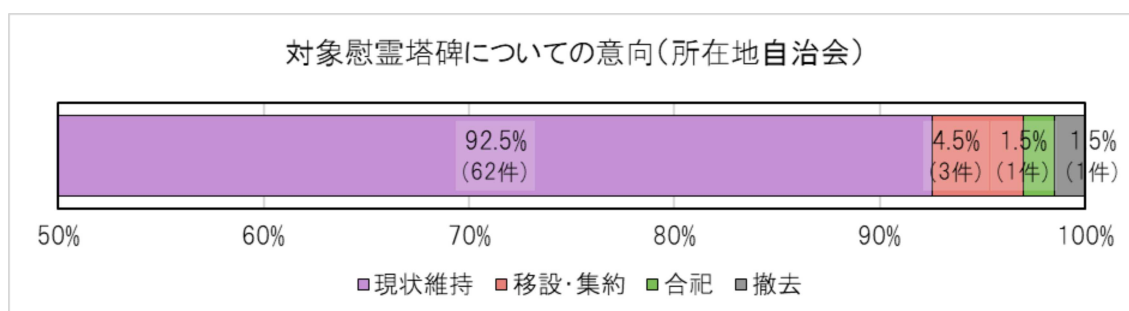
ア 土地所有者



【主な理由】

現状維持:管理されている／問題が生じていない／検討したことがない／判断できない 等
移設・集約、撤去: 建立者や経緯が不明／管理責任をとれない／土地の活用を検討している 等
合祀 : 参拝者のために近距離に合祀してほしい

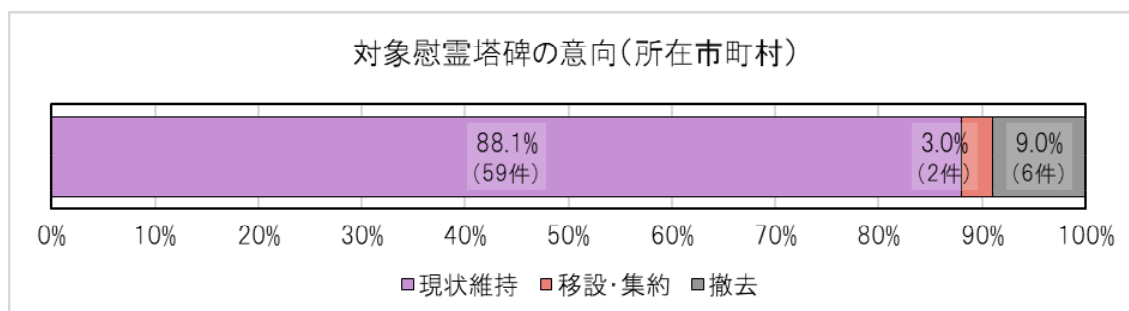
イ 所在地自治会



【主な理由】

現状維持:管理・清掃がされている／問題が生じていない／話し合ったことがない／判断ができない／関係者の判断に任せたい／参拝者がいる／平和学習に残しておいたほうがよい 等
移設・集約、合祀: 建立者や経緯が不明である 等

ウ 所在市町村



【主な理由】

現状維持: 問題等は生じていないので、現状維持でよい／関係者の意向を尊重したい 等

移設・集約: 計画に位置づけられているエリアへの移設を検討している

撤去 : 無許可で建立されたものであり、将来的には撤去することになると考えられる等

また、今後、対象慰霊塔を移設・集約（合祀）する場合の場所について確認をしたところ、主な回答は以下のとおりであった。

【主な回答】

- ・検討したことがない。移設・集約は考えていない。引き取ることも考えていない。
- ・建立場所にあるから意味がある塔碑も多いので市有地に集約や移設することは難しい。
- ・刻銘板のみを資料として博物館で収蔵する可能性はある。
- ・対応可能な市有地は今のところはない。(個人有地を買い上げることも検討していない。)
- ・対象塔碑がすでに集約されたものである。
- ・対象塔碑は合祀するものではない。(慰霊塔碑というわけではない)
- ・移設を検討している場所がある。
- ・建立について積極的に関与した経緯も無く、塔碑は市の財産として扱われていないため、移設等の可能性は無い。
- ・市所有の慰霊塔はあるが、別の遺族会との兼ね合いや追加料金などで対応は難しい。

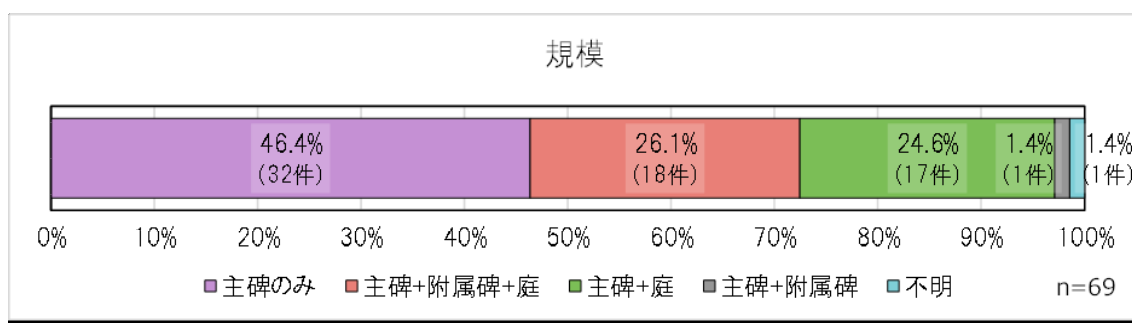
(4) 現地調査

現地調査から得られた結果を以下に示す。

注：構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならないものがある。

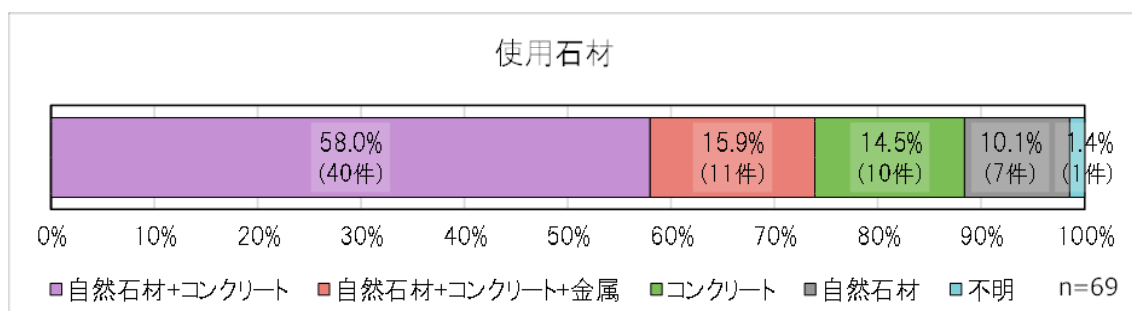
ア 規模

塔碑の規模をみると、最も簡素な「主碑のみ」が46.4%(32件)と最も多く、続いて「主碑+附属碑+庭」が26.1%(18件)で二番目に多かった。



イ 使用石材

使用石材は、「自然石材+コンクリート」の組み合わせが58.0% (40件) と最も多く、鉄筋コンクリートの躯体に御影石等を貼り付けているものが多く見られた。自然石材を使用している場合は長期にわたる耐久性が期待できメンテナンスの必要性も少なく永続性がある。

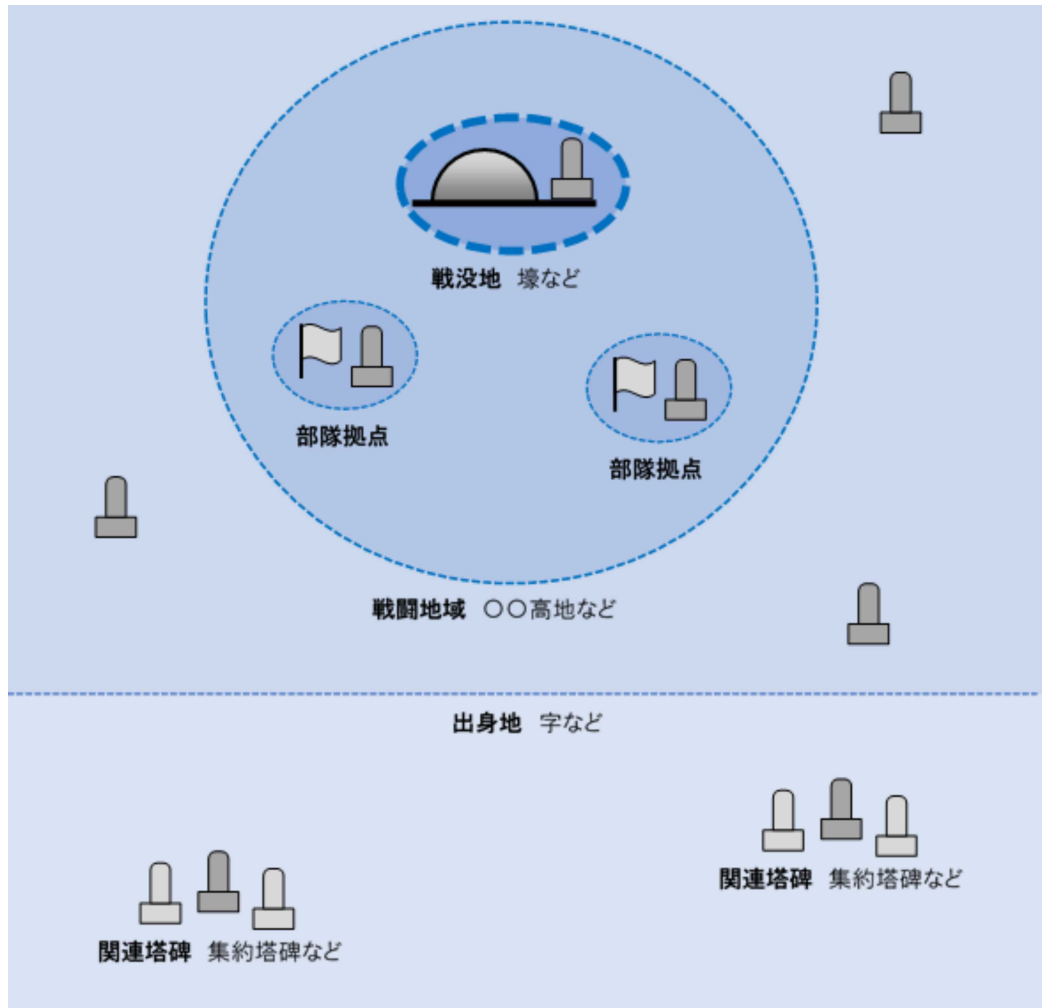


ウ 慰霊塔碑と建立場所の関係性

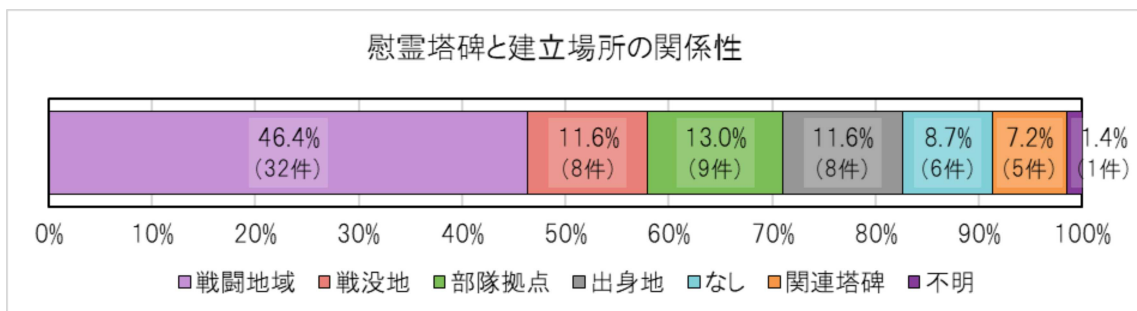
慰霊塔碑と建立場所には何らかの関係性があり、今後の移設や合祀を検討する上で参考となるため、現地調査における碑文、ヒアリング、文献を元に確認した。戦没地から範囲が広がるにつれ塔碑と建立場所の関係性は薄くなる。

建立場所の種類

種類	内容
戦没地	部隊拠点のうちの一つで、最期の場所。部隊長の自決の場所または個人が亡くなった場所。“終焉の地”との表現がある場合がある。
部隊拠点	部隊が拠点を置いた場所。壕など。
戦闘地域	戦闘が繰り広げられた地域。宜野湾嘉数高台、浦添前田高地など。
出身地	戦没者の出身部落(字)や市町村。
関連塔碑	対象塔碑と関連する塔碑がある場所。

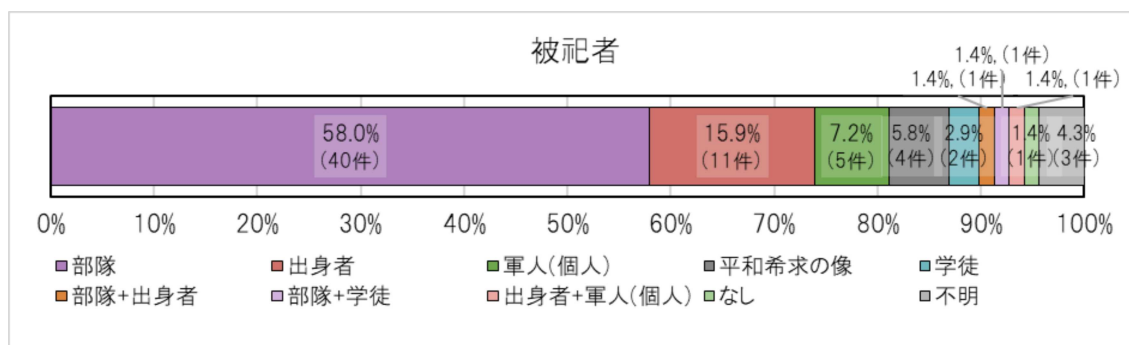


慰霊塔碑と建立場所の関係性については、「戦闘地域」が46.4%(32件)と最も多く、次いで「部隊拠点」が13.0%(9件)と二番目に多い結果となった。これは今回対象塔碑の大半が、部隊に関係するものであることも関係している(次のエ被祀者を参照)。部隊に関係する塔碑の建立者はほとんどが本土出身であるため、戦後75年目を迎えた現在では管理者が不明になっているものが多い。



エ 被祀者

被祀者では、「部隊」が58.0%(40件)と一番多く、続いて「出身者」が15.9%(11件)であった。



3 今後の対応

先の大戦により犠牲となった戦没者のみ霊を慰めるため、県内には多くの慰霊塔及び慰霊碑が建立されているが、戦後76年が経過し、今後の慰霊塔のあり方については関係者の意向が個々に異なることが判明した。

県においては、今回の調査等で明らかになった個別の事情を踏まえ、関係者等と協議を重ねることで、県民の思い、建立者等の思いに寄り添いながら、慰霊塔のあり方を個々に検討して、課題解決に取り組んでいくこととする。

また、慰霊塔(碑)は、先の大戦に起因するものであり国の責任において対応すべきものであることから、支援制度の充実を求めていく。